

拠点名称：小児医療現場における「患者・家族からの暴力・暴言・ハラスメント」対応力強化研究拠点

拠点代表者：医学医療系・准教授・涌水 理恵

研究拠点形成計画の概要

本研究拠点では小児医療現場において明らかになっていない、患者・家族からの暴力・暴言・ハラスメントの実態と組織・個人のマネジメントの実態を、質問紙調査/Web 調査の施行と拠点 HP の開設により量的・質的に把握し、『組織（病院・クリニック／病棟・外来・領域）としての対策』、『個人としての対応力』を強化するべく具体的な指針を決定し、それらの実践・普及をアドボケートすることを目的としている。患者・家族と医療従事者・関係者双方にとって心地よい医療・サービス・空間の創造を最終目標に掲げる。

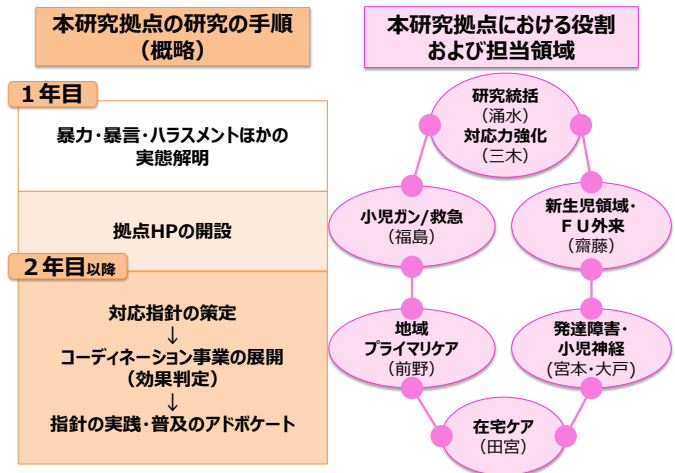
①小児医療現場における
 ・患者・家族からの暴言・暴力・ハラスメントの実態把握
 ・組織のマネジメント/個人対応の実態把握
 (全国的な傾向や具体的内容の整理)

②『組織としてのマネジメント』、『個人としての対応力』強化のための指針の明示と実践・普及のアドボケート
 (全国で講演活動の展開、指針・マニュアルの拡散、HPの開設)

①により現場で使える暴力への対応指針を策定できる
 ②により小児医療現場の対応力の強化を図ることができる
 ↓
 最終的にはすべての患者・家族と医療従事者・関係者双方にとって心地よい医療サービス・空間の創造に貢献する。

研究拠点形成に係る研究の概要

1年目に、複数領域の小児医療現場の管理者・職員向けに全国での実態調査（質問紙調査/Web 調査）を行い、結果概要をまとめた拠点 HP を開設する。さらに拠点 HP 内でも相談窓口を設け、相談事案を受け付ける。2年目以降は、実態調査と窓口相談事案の分析結果を統合して法学や倫理の専門家の助言や患者家族団体のオブザーブを得て全中核メンバーで検討・協議したのち、暴力・暴言・ハラスメントへの『組織としての対策』また『個人としての対応力』を強化するための指針を策定し、現場での実践・普及をアドボケートするコーディネーション事業を展開していく。具体的には出前講義や Web 配信等で患者・家族からの暴力に悩む小児医療現場へのマネジメントレクチャーを行い、管理者には職員を守るために必要な対策を知ってもらい、職員には安全な対応や被害防止のために必要な視点をもってもらい、実際の対応を伝授する。コーディネーション事業の展開では疫学・統計学の専門家に助言を得て介入デザインの決定、介入効果の判定を行う。指針を用いた事業展開の有用性を検証し、全国の小児医療現場にポスターやちらし、職員個々に携帯用プラスチックカード等を配布し、指針の実践・普及をアドボケートする。本研究拠点では、小児医療現場における患者・家族と医療従事者・関係者との間に生じる医療コンフリクトの実態を明らかにし、管理者および職員が現場で使える暴力への対応指針を策定し、対応力強化のための事業を展開する（効果判定もおこなう）。



1年目に、複数領域の小児医療現場の管理者・職員向けに全国での実態調査（質問紙調査/Web 調査）を行い、結果概要をまとめた拠点 HP を開設する。さらに拠点 HP 内でも相談窓口を設け、相談事案を受け付ける。2年目以降は、実態調査と窓口相談事案の分析結果を統合して法学や倫理の専門家の助言や患者家族団体のオブザーブを得て全中核メンバーで検討・協議したのち、暴力・暴言・ハラスメントへの『組織としての対策』また『個人としての対応力』を強化するための指針を策定し、現場での実践・普及をアドボケートするコーディネーション事業を展開していく。具体的には出前講義や Web 配信等で患者・家族からの暴力に悩む小児医療現場へのマネジメントレクチャーを行い、管理者には職員を守るために必要な対策を知ってもらい、職員には安全な対応や被害防止のために必要な視点をもってもらい、実際の対応を伝授する。コーディネーション事業の展開では疫学・統計学の専門家に助言を得て介入デザインの決定、介入効果の判定を行う。指針を用いた事業展開の有用性を検証し、全国の小児医療現場にポスターやちらし、職員個々に携帯用プラスチックカード等を配布し、指針の実践・普及をアドボケートする。本研究拠点では、小児医療現場における患者・家族と医療従事者・関係者との間に生じる医療コンフリクトの実態を明らかにし、管理者および職員が現場で使える暴力への対応指針を策定し、対応力強化のための事業を展開する（効果判定もおこなう）。